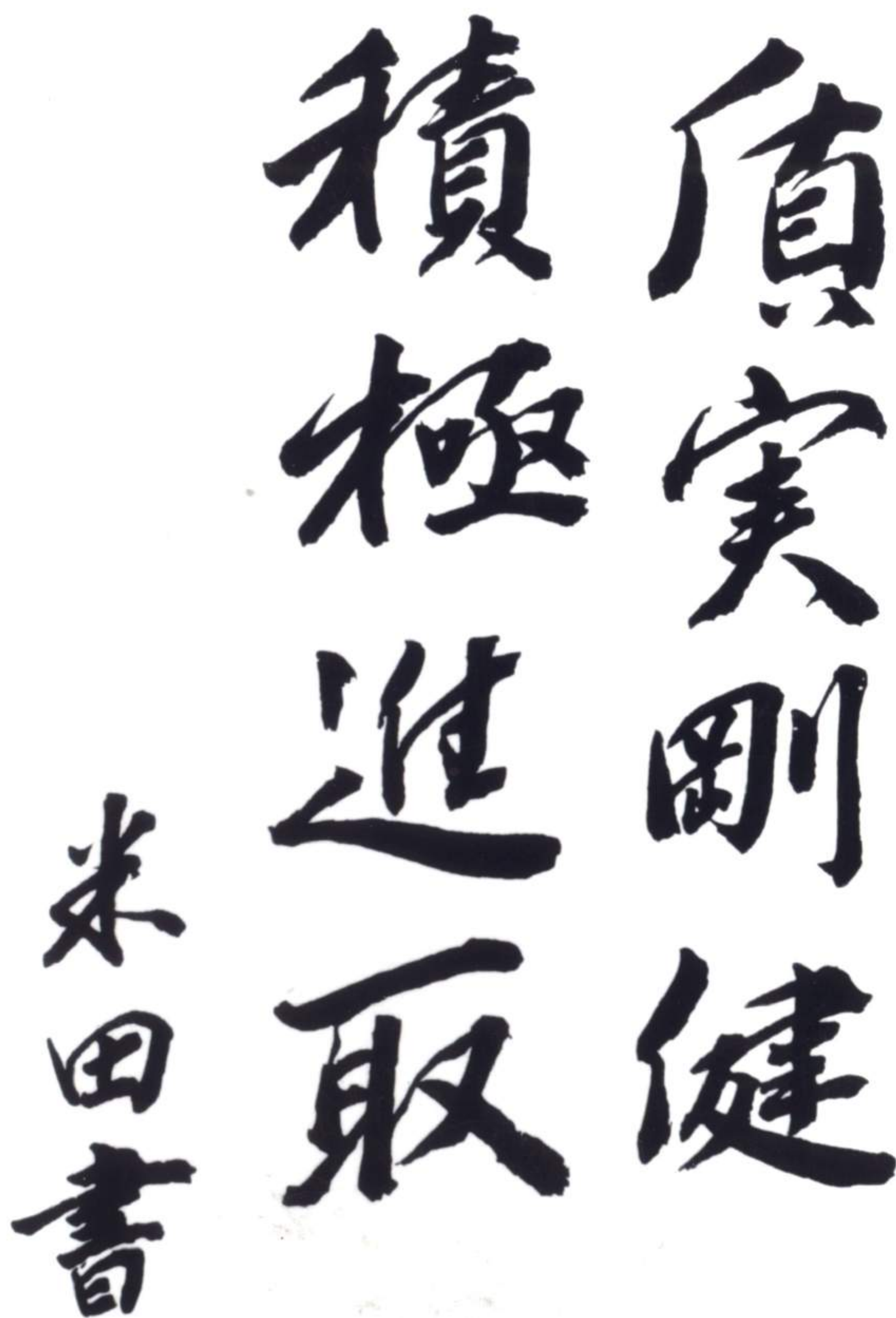




大学で学問を修め、また読書と思索を重ねるなかで、米田は「人生とは天分を開発して社会に貢献することにある」との思いを強くしました。そして、その実現のために「教育」への熱意をもつようになります。

一方、約束していた父親からの仕送りが大学入学後によりやく始まり、自ら得た収入は貯金できるようになりました。

1926（大正 15）年、米田は中央大学を卒業します。当時の社会状況は大正デモクラシーにともなう都市文化の形成や労働・農民運動の活発化の一方、治安維持法制定・社会諸運動の弾圧で混乱し不安定なものでした。これを目の当たりにした米田は、国家の中核となる「中正堅実」な青年の育成を志します。